

# 2025

東アジア文化都市交流事業報告書

清州市開催

2025.10.23 - 10.27

新潟市文化スポーツ部文化政策課

## 01\_事業概要・趣旨 Purpose of the Project



2015年日中韓の東アジア文化都市である新潟市、青島市、清州市の3都市は、2015年以降も継続して相互交流を実施することで、自都市の文化の独自性や東アジアの文化の共通性を認識して価値を共有するとともに、相互理解や連帯感を深化させ、共生・交流の関係づくりを築く機会となっている。

その取り組みの一環として、清州工芸ビエンナーレの一環として開催された「日中韓国際フォーラム」及び新潟市の文化を紹介する「日中韓工芸体験ワークショップ」に参加するため、本市から工芸職人及び職員を派遣し、本市の魅力の発信、国際文化交流を実施した。

## 02\_スケジュール Main Schedule

日程	主な内容
10/23(木)	新潟空港－仁川空港－清州市
10/24(金)	清州工芸ビエンナーレ視察、東部倉庫見学、箸リズムワークショップ参加
10/25(土)	国立清州博物館見学、日中韓工芸体験ワークショップ、日中韓国際フォーラム
10/26(日)	箸工芸ワークショップ、イベント「ミステリー×家、テソン」見学、風呂敷ワークショップ
10/27(月)	仁川空港－成田空港－新潟駅

## 03\_参加者 Participant

### 【新潟市】

参加者：吉田建具製作所 2名、新潟市文化スポーツ部長

引率：新潟市文化政策課職員 2名

### 【中国・青島市】

参加者：切り絵、螺鈿、書道の工芸家 各1名

引率：青島市文化・観光局公共サービス課長  
青島市文化館館長

### 【韓国・清州市】

参加者：清州市文化産業振興財団文化都市本部職員  
清州市役所職員文化体育観光局職員

# 05\_プログラム 1日目 Program Day 1

10月23日 (木)

## 行程

12:50 新潟空港 発  
15:30 仁川空港 着  
20:00 清州市 着

ホテルムゼオ泊

# 05\_プログラム 2日目 Program Day 2

10月24日 (金)

## 行程

9:00 清州工芸ビエンナーレ視察  
13:00 東部倉庫見学  
16:30 箸リズムワークショップ  
18:30 歓迎レセプション

ホテルムゼオ泊

## ■ 清州工芸ビエンナーレ視察 (メイン展示)

14回目を迎えた「清州工芸ビエンナーレ」は、陶磁、漆、繊維、金属など、多彩な工芸分野を網羅する2年に1度開催される国際的な芸術イベントである。16か国・地域から作家が参加し、会期中には約30万人の観客が訪れるなど、清州市の文化的魅力を国内外に発信する重要な機会となっている。

テーマ：Re\_Crafting Tomorrow

期間：2025.9.4-2025.11.2

会場：文化製造場本館 (C棟) ほか



## ■ 清州工芸ビエンナーレ視察（布×箸 公募展）

日常の道具を新しい視点で捉え、現在と未来の工芸をつなぐことを目的とした「箸」と「布」をテーマとした公募展が開催され、本賞の受賞作を含む入選作品が展示されていた。あわせて、東アジア文化都市に選定され交流を行っている本市の新潟仏壇や新潟漆器の箸、青島市の布や箸も紹介され、各都市の工芸文化を発信する機会となった。



## ■ 東部倉庫の見学

清州工芸ビエンナーレ会場の文化製造場本館の至近に位置する東部倉庫（D棟）は、かつてのタバコ葉保管倉庫をリノベーションした施設で、現在はカフェや貸館、芸術教育、地域連携プロジェクトなど、多様な活動の場活用されている。あわせて、同一敷地内に国立現代美術館清州が立地しており、展示に加え、開放型収蔵庫として美術品を公開する先進的な取り組みが行われている。



## ■ 箸リズムワークショップ、歓迎レセプションへの参加

日中韓に共通する文化である「箸」が太鼓のバチに似ていることに着目し、バチを用いてリズムを刻むワークショップが実施された。また、歓迎レセプションでは、清州市において、3都市が一堂に会することができた意義が共有され、今後のさらなる交流の深化への期待が語られた。



10月25日（土）

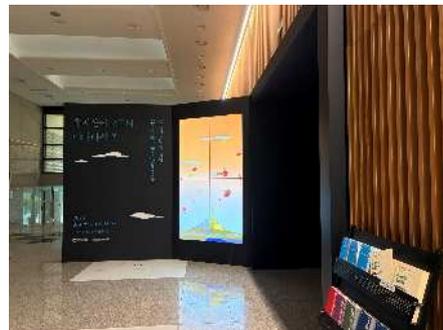
## 行程

9：00 国立清州博物館の見学  
13：00 日中韓工芸体験ワークショップの実施  
16：00 日中韓国際フォーラム

ホテルムゼオ泊

### 国立清州博物館の見学

牛岩山の麓に位置する国立清州博物館では、忠清北道の文化遺産が常設展示されているほか、日韓国交正常化60周年を記念した特別展「富士山に登る、山梨」が開催されており、忠清北道と姉妹提携関係にある山梨県の文化が紹介されていた。



### 日中韓工芸体験ワークショップの実施

日中韓工芸体験では、本市工芸職人による組子の技法を用いたコースター制作のワークショップを清州市民対象に実施し、多くの参加者で大変盛況となった。青島市からは、螺鈿、書道、切り絵、清州市は箸の各ワークショップが実施され、来場者が多彩な工芸文化に触れる機会となった。



## 日中韓国際フォーラムへの参加

日中韓国際フォーラムでは、清州市、本市、青島市の順に「東アジア文化都市交流のこれまでの10年、こらからの100年」をテーマとした報告および提案が行われた。続いて、忠清北道文化総連合会会長、大学教授、新聞紙主筆を交え、パネルディスカッションが実施され、長期的な視点に立ったプロジェクトの重要性や、政治的変化にも対応するためのワーキンググループの設置の必要性などが提案された。



## 05\_プログラム 4日目 Program Day 4

10月26日 (日)

行程

- 9:00 箸工芸ワークショップ
- 13:00 イベント「ミステリー×家、テソン」見学
- 15:00 風呂敷ワークショップ

ホテルムゼオ泊

## 箸工芸ワークショップ

清州市のアーティスト工房「マールギャラリー」にて、日中韓に共通する文化「箸」を制作を通じ、日中韓のアーティスト交流が行われた。竹を使った菜箸づくりや、韓国伝統の韓紙（ハンジ）による箸収納袋の制作を通して、互いの文化への理解を深める機会となった。



## イベント「ミステリー×家、テソン」見学

清州市都心にあるデジョンンの家屋や文化資源を活用し、歴史ある街並みを巡る散歩型のお祭りが開催されていた。路地猫ツアーでは、地図を片手に猫に扮した劇団員が待つ家々を訪ね、建築や展示されたアートを見学しながら、地域の魅力を体感する内容となっていた。



## 風呂敷ワークショップ

布で包むこと文化は日中韓に共通しており、韓国では「ポジャギ」と呼ばれている。風呂敷は物を包む用途に加え、スカーフ、帽子、手首に巻くなどファッションとしても活用できることが紹介され、即興のランウェイが行われるなど、和やかな雰囲気の中で交流が深まった。



## 05\_プログラム 5日目 Program Day 5

10月27日 (月)

### 行程

7:30 清州市 発  
13:00 仁川空港 発  
16:30 成田空港 発  
20:07 新潟駅 着

## 06\_成果・所感

- 清州市において、青島市・新潟市・清州市の3都市が一堂に会して交流を行うことができたのは、コロナ禍を挟み2019年以来である。3都市がそろって交流することで、これまで積み重ねてきた交流の歩みが改めて振り返ることができ、相互の信頼と絆をより一層深める機会となった。
- 交流事業では、日中韓の共通する文化を「箸」や「風呂敷」をテーマとしたワークショップが実施され、参加した工芸職人が、共通点や文化的な違いを体感しながら学ぶ、文化を通じた交流の機会となった。
- 本市の工芸職人による日本の伝統木工技術である「組子」を用いたワークショップでは、接着剤等を使用せず、小さな木片を組み合わせ、幾何学模様のコースターをつくる体験を行い、清州市民等約60名が参加した。完成時の達成感や、特にこどもたちの喜ぶ姿が印象的であり、国籍や世代を超えた文化交流の意義を改めて感じる機会となった。
- 会期中の清州工芸ビエンナーレの会場建物内では、市民公募による箸や風呂敷の展示が行われ、本市が貸与した新潟漆器や新潟仏壇の技術を用いた箸等も展示されることで、本市の伝統文化を海外に発信する貴重な機会となった。
- 日中韓国際フォーラムでの発表では、日本語に加え、一部で韓国語や中国語を行ったことにより、参加者から高い評価を得ることができた。本市の紹介に加え、これまでの交流で得られた「相互理解の深化」「次世代へのつながり」「共創の芽生え」という3つの成果を共有し、今後の100年に向けて、文化の力を活かした「共創」への歩みを、3都市の市民とともに進めていくことを提案した。
- 清州市は、文化を核とした都市づくりに積極的に取り組んでおり、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟も目指すなど、文化政策に強い意欲を持っていることがうかがえた。ビエンナーレ会場にとどまらず、市街地各所にインスタレーションが設置されるなど、韓国政府の文化振興予算を効果的に活用した先進的な取り組みが展開されていた。
- 本市と過去に交流のあった済州特別自治道や、2025年の韓国の東アジア文化都市に選定された安城（アンソン）市の関係者も参加しており、あいさつや情報交換を行うなど、人的ネットワークの構築にもつながった。